

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	イギリス近現代史における労働党(その2)										
【授業の概要・目的】											
前期の授業に引き続き、労働党に焦点を合わせてイギリスの近現代史を再検討する。後期開講の「その2」では、初の多数派政権となったアトリー政権期(1945~51年)から20世紀末までを対象とする。「その1」の講義内容が前提となるので、併せて受講することが望ましい。											
【到達目標】											
政党政治史の文脈において労働党が果たした役割ばかりでなく、広く労働者階級が20世紀イギリス社会の形成にいかに関与してきたのかまで視野に収めて、「労働」の視点からイギリス近現代史を把握する能力を身につけること(「その1」と同様)。											
【授業計画と内容】											
以下に掲げたテーマの各々につき、1~3回程度の授業を充てる予定である。 (1) アトリー政権と福祉国家 (2) 新基軸の模索 (3) ウィルソン政権の功罪 (4) 1970年代 (5) サッチャリズムと労働党 (6) ニュー・レイバー (7) その他											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
以下の文献を参照することが望ましい。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

セリーナ・トッド（近藤康裕訳）『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク（西沢・市橋・椿・長谷川訳）『イギリス現代史、1900～2000』名古屋大学出版会、2004年。

（その他（オフィスアワー等））

前期開講の「その1」と合わせ、通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。